

50年間「盆おどり大会」の企画、演出、舞台監督を務めている伊藤俊雄が紹介します。

矢臼別の運動とは？ 平和盆おどり大会・・・

手弁当で花火をあげ、演奏をし、おどり、人形を操る等、すばらしいステージを創る、多彩な人々が全国から集います。

“みんなで語り合い、飲みあい、泣き、笑い、心を癒し、元気を分かち合ってきました。”矢臼別盆おどり大会は、「平和の祭りであり365日の闘いの結節点」なのです。

川瀬さん一家を励まし「演習場を農民に返せ!」「平和に生きる権利を守れ!」として始められた平和盆おどり大会は57回を終え、只今58回目の大会を8月4日(金)、5日(土)、6日(日)に開催の準備を進めています。

私たち、うたごえ運動は「うたごえは平和の力!」「うたは闘いと共に!」を持って、この運動の中心で最初からリードしてきました。その後「うたごえは生きる力!」を舞台監督を務めながら“文化の力で大会を盛り上げる”を、多くの団体の人たちと協同し「文化の森・文化が似合う矢臼別」となっています。

今では“演習場のど真ん中に「平和資料館」と「平和の家・美術館」が造られ、美術館の周りには数台の石像のモニュメントが置かれています。

故、畑田重雄先生は、「ここは、まるで米軍基地のよう『平和に生きる権利』は、ゆずり渡す事は出来ない」と長期に渡ってネバリ強く闘っている。ここの人々には非壮感はない、小豆例の行事の「平和盆おどり」を含め、明るく、楽しく闘いつづけている事が、スゴいのです。映画「矢臼別物語」は、この事をえがいていると。

5月7日(日)盆おどりの実行委員会で
会場のD型ハウスに行きました。
桜が満開でした。
私たちが待っているように
本当にきれいでした、ヨ。

2023
8月 25 [FRI]

野外フェスティバル

17時
開演

大地のうた

札幌芸術の森野外ステージ

- 第1部 ▶オープニング「大地のうた」
▶ゲスト・アイヌアートプロジェクト
▶日韓音楽交流25周年記念訪日合唱団
▶ゲスト・川口真由美
▶合唱構成「矢臼別わが故郷」・菊地哲史



川口真由美 菊地哲史
沖縄から矢臼別から平和のうたごえを届けます。

合唱構成

矢臼別わが故郷

「矢臼別讃歌」

「かがり火のうた」

「つながっている」

この3曲です

うたって下さい
うたいましょう

「学びのコーナー2」は、矢臼別の運動を



うたごえ運動75周年
2023日本のうたごえ祭典 in 北海道

いのち輝く大地から平和な未来を
あした



矢臼別の運動

北海道の東端、根釧原野の一角にある酪農地帯。日本一広い自衛隊矢臼別演習場。ここ矢臼別一帯は、戦後食糧不足対策として開拓が始まり大勢の若者達がやってきた。1952年に、杉野芳夫、川瀬沼二が入植した。

開拓者は心血を注いで必死に開拓した。しかし62年、突如、陸上自衛隊の演習場計画が持ち上がり、別海、浜中、厚岸(町)議会も交付金をちらつかされ受け入れてしまう。執拗な土地買収が始まり杉野、川瀬の二戸は踏みとどまる「自分たちが切り開いた土地だ」「私はここに居たい」と最終的に土地は売らなかった。

川瀬沼二さんは「ここで生活を続ける事が憲法の平和的生存権を守り、貫く闘いだ」その生き方に慕い、支え、支援し、共に繋り合う釧根の人々の輪、全国の人々の輪が。

二人が亡くなった後も二軒の民家に3人が暮らしている。58回を迎える『平和盆おどり大会』、暮れの29日に行われる“ニクイ奴をつく『もちつき望年会』”と、二つの大きな行事が“明るく、楽しく”連綿と続いています。若い世代、親から子へ、子から孫へ繋がっています。

95年から始まった『米海兵隊移転訓練の監視活動』も全国へ発信され、各地から大勢の人達がやってくる。エネルギーを貰いながら、その火を繋いで行く。“戦争か平和かの最前線であっても”「矢臼別には誰にでも居場所があり」「ここにいるのが闘い。足繁くここに通うのが闘い」なのです。

「矢臼別讃歌」

歌の前と間奏に“日本一広い演習場”、“私はここに居たい”と。残った人。“盆おどり大会の風景”。

「かがり火のうた」

この歌は“盆おどり大会”の、テーマソングとなっている。

「つながっている」

この歌は、矢臼別と沖縄の闘いは、「心・空に故郷の空につながっている。連帯のうたごえ。

学びのコーナー 2

出演登録

をお願いします

野外
フェスティバル

大地のうた
札幌芸術の森野外ステージ
17時開演

合唱構成

矢臼別わが故郷

募集しています

200名

指揮：西本真二郎

ピアノ：福田こず絵
(合唱団エルテ)



うたい手が少ないのです。助けてください。

映画「矢臼別物語」が、山本洋子監督が制作し、今、全国で上映会が行われています。

今度は、音楽で、矢臼別を広めたいとの思いで、合唱構成「矢臼別わが故郷」を創りました。

優しい長靴獣医の芝田重郎太さん作詩と、優しい言葉使いで詩う蒔地哲史さん。2人の詩は、〇〇反対を叫ばない。本来あるべき北海道の大地の姿を歌い、“かがり火に願いを込め”。この2曲は、希望であり祈りの歌です。